



○原籍校の教員にお願いしたいこと

・院内学級へ転入した時の対応について

院内学級の教員と連携を図り、学級通信や行事の配付物等の送付、学習進度やテスト範囲等の情報を伝えるとよいです。

また、児童生徒がいない教室環境についても配慮が必要です。机や椅子、掲示物、ロッカー等、例え在籍していなくても、必ず復学してくるという意識をもち、そのままにしておくともよいです。また係分担等、学級の一員として必ず名前を入れておくことも忘れないようにすることが大切です。さらに、学年をまたいで入院が続く時には、校内で相談し、復学した際に所属する学級を決めておくなどの配慮があると、本人や保護者にとっては安心して治療に向かうことができ、学習に対しても意欲的に取り組むことができます。

①交流活動について

入院中、体調が整えば本人や保護者、院内学級の担任と相談し、医師とも連携しながら、原籍校の行事（文化祭や修学旅行等）への参加も可能な限り考えていくとよいです。入院中も原籍校との仲間との交流を続けていくことで、復学時の不安軽減につながります。

②高校生について

高校生に対しては、現在院内学級がないので「院内学級に転校しない時の対応」を参照。

③転校にともなう書類等の手続きについて

文書等の視覚的な資料を提示し、保護者に丁寧に説明する。

・院内学級に転入していない時の対応について

まずは医師と連携し本人の体調に合った学習をしていく。

【学習の形態】

①遠隔授業：Web 会議システム等を利用し、病室と教室をつなぐ。

詳しい方法については県の特別支援教育課に問い合わせをする。

②プリント学習：定期的な面会や送付により支援する。

③院内学級の教員による学習支援（※）：保護者を通し、院内学級の教員と相談する。

行事への参加についても本人や保護者の希望を聞き、医師と連携しながら可能な限り考えていけるとよいです。そうした配慮は、本人の治療に対する前向きな気持ちへとつながります。

※：学習支援は本人が院内学級に籍を移さずに学習の支援を受ける制度です。ただ、正式に籍を移した者が優先となりますので、院内学級に登校できない場合は、時間や回数が制限されます。また、院内学級に籍を移している児童生徒がいなくなれば、院内学級は閉鎖となり学習支援は受けられなくなります。

• **保護者と定期的に連絡を取り、本人の様子を把握する。**

この時期は、保護者にとっても子どもの入院やそれに伴う家庭生活の変化が大きいので、精神的に不安な時期となります。原籍校の教員から定期的に連絡をし、学級の様子を伝えたり、本人の様子や保護者の悩みに耳を傾けたりすることが、保護者の不安軽減の助けとなり、いつでも復学できる場所があるという安心感をもってもらうことにもつながります。さらに、入院中の本人の様子を正確に把握しておくことは、スムーズな復学支援につながります。

• **学級の仲間への対応を、本人や保護者と相談して決める。**

本人や保護者と相談し、本人の様子を学級の仲間に伝えるとよいです。本人だけでなく、学級の仲間も友達が入院したことについて不安に思い、心配しています。本人のプライバシーに配慮しつつ、本人や保護者が拒否しない限り、本人の様子を定期的に学級の仲間に知らせたり、学校や学級の様子を本人に知らせたりするとよいです。そうした対応は、本人や学級の仲間にとって、スムーズな復学につながります。また、本人の復学時に慌てなくてもすむように、感染症予防について、事前に保健の授業等を利用して、学級全員で感染症予防の学習を行っておくことも大切です。

• **原籍校に在籍している兄弟姉妹の様子に気を配る。**

兄弟姉妹にとっては、家族の目がすべて入院した兄弟姉妹に向けられがちで、病気でない自分は我慢しなければならないと分かっているにもかかわらず、自分たちも寂しさや不安で気持ちが乱れがちになりやすいものです。兄弟姉妹の入院が長期になればなるほど、そうした気持ちの乱れは大きくなり、身体や心の異変となって出てくる場合もあります。そうした変化を見逃さず、彼らの寂しさや不安にこたえてあげることが大切です。例えば、話しかける機会を意識的に増やしたり、頑張っていることをしっかりと褒めてあげたりするのもよいです。